

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(超短期プログラム用)

The University of Tokyo Study Abroad/Student Exchange Program Report Form (for programs from a week to 3 months)

記入日/Date: 2021/8/24

■ID:D21009

■参加プログラム/Program: 【第三次募集】オンラインサマープログラム(各協定校主催)

■プログラム情報/Program info.: https://oiasystem.ntu.edu.tw/summer/course/index.detail/season/2/course_sn/225
<https://www.u-tokyo.ac.jp/adm/go-global/ja/program-list-short-onlinesummer1.html>

■派遣先大学/Host university: 国立台湾大学

■プログラム期間/Program period (MM/DD/YYYY): 8/2/2021 ~ 8/21/2021

■東京大学での所属学部・研究科等/Faculty/Graduate School at UTokyo: 総合文化研究科広域科学専攻関連基礎科学系 修士課程

■学年(プログラム開始時)/Year at the time of Study Abroad: 修士 1 年

■参加にあたってこの時期を選んだ理由/Reason for choosing this period to participate:

Go Global ウェブサイトでプログラムを知り、台湾大学のものがあつたため応募しました。講義のない期間であるため参加しやすいということが応募を決めた理由の一つではありますが、特段時期にこだわりがあつたわけではありません。

■参加を決めるまでの経緯/How and why did you decide to participate?:

時々Go Global ウェブサイトをチェックしており、3 月か 4 月頃にオンラインサマープログラムの案内を目にしました。主催大学一覧を参照したところ、かねてより興味のあつた台湾大学が主催するプログラムの中に中国語学習コースを見つけ、中国語(繁体字)のスピーキングやライティングを練習したいと考えていたため、参加を即決しました。割引があることや奨学金の可能性もあることも決め手となりました。

プログラムについて/About the program you participated in

■概要/Overview:

〈プログラム開始前〉

(O1)プレースメントテストプログラム開始 1 ヶ月前頃にプレースメントテストを受けるようメールが来ました。テストは 3 つのレベルに分かれており、その中から 1 つ以上を選んで Google forms 上で解答します(中国語学習経験がある場合)。全員の解答が終わると、1 対 1 の面接があり、中国語で先生と話したり質問に答えたりした後、学生のレベルに合っていると思われる教科書の中身を見せていただきながら音読などをしました。前述のように、学生の希望も考慮していただけるようでした。

(O2)教科書購入プログラム開始の約 1 週間前に中国語講義で使用する教科書を知らせるメールが届き、それを購入するよう指示されました(ここには自分の参加するクラスのレベルについて記載はありません)。紙でも電子書籍でもよいとのことでしたが、報告者は紙の教科書を台湾の大手ネット書店「誠品線上」で土曜日に購入したところ、5 日後に届きました。

(O3)オリエンテーション開始 3 日前に自分が参加するクラスの情報(レベル・参加者名簿・参加者の国籍・時間・教員名・Zoom のリンク)と諸連絡が書かれたメールを受け取りました。プログラムの全参加者の名簿や各講義・イベントなどの内容紹介が載ったパンフレットと、「NTU COOL」(東大の ITC-LMS のようなウェブサイト)のマニュアルが添付されていました。プログラム期間に入る前に NTU COOL のゲストアカウ

ントを有効にし、短い動画を 5 本観ておく必要があります。内容はサマープログラム担当者によるオリエンテーション 1 回と学生によるキャンパスツアー 4 回(台湾大学のキャンパスライフ、歴史、大学が学生に提供しているサポート、学生の活動)でした。このほかの事前準備として、専用の Facebook グループに加入することと、写真・動画撮影許可書類に署名して担当者に送信することとの 2 点がありました。さらに、参加者 1 名につき 1 名つく学生アドバイザー(SA)から別途、チューター・ステーションの日程調整のメールが来ました。

〈プログラム期間〉

(A)中国語講義期間中の平日(最終金曜日を除く計 14 日間)、毎日 2 時間 30 分のレベル別少人数オンライン講義(Zoom 利用、リアルタイム・双方向)。この講義では中国語以外の言語を話すことが禁止されており、全て中国語で行われました。講義では繁体字が使用されます(このことは報告者にとって本プログラムの魅力の一つでしたが)、課題などで中国語を書く際には簡体字を使用しても問題ないそうです。報告者が参加したクラス C(各クラスについては※1 参照)では『遠東生活華語三』を使用し、参加者は 3 名(日本 2 名、カナダ 1 名)でした。約 3 日で教科書 1 課分進み、教科書計 5 課分を学習しました(1 課の学習サイクルは※2 参照)。毎授業後には、次の授業開始までに提出する課題が 1 つ以上出されました。教科書の内容以外に、2 回の新聞記事紹介(10 分程度)が課されました。記事の言語や内容に制限はなく、好きなものを選んで中国語で発表し、質疑応答を行いました。また、期間中には中間試験と期末試験があり、いずれもリーディング・リスニング・ライティングの試験でした(期末試験にはスピーキングが含まれる予定でしたが、講義中にスピーキングを多く行ったため、試験に割く時間を減らすことを目的に中止になりました)。全体として講義では会話の機会が多く確保され、期待以上に中国語を聴き取り、話す練習をすることができました。課題では中国語の聴き取りのほか読み書きもする必要があり、全方面から訓練ができ非常に有意義だったと感じています。これらに加え、各参加者の発言や議論を通して、台湾・カナダの文化や各人各様の考え方を知り、日本や自分と比較することも新鮮で面白かったです。

(※1)クラス分けについてシラバスには 7 段階のレベルが記載されていますが、今回はレベルと参加可能な時間(時差)により A から D の 4 クラスに分かれていました。A と C は各 3 名、B と D は各 1 名が参加しました。(※2)1 課の学習サイクル[新しい課に入る前日]予習用課題に取り組む。テキストの文章の音声が必要なだけ聴き、それに基づいて単語・語法の穴埋め問題と、内容に関する記述問題に解答する。

[第 1 日]テキストの内容に関連する質問に答え、必要に応じて議論する。その後、教員が作成したスライドを参考にしながら単語・語法の説明を受け、都度参加者が順に指名され、教員の質問に口頭で回答する。全単語・語法について、全員が 1 回以上指名され、主に教員がおっしゃった文の内容を教科書の新出単語・語法を使って言い換えたり、自国の文化や自分の考え方などについて話したりすることが多い。課題は各単語・語法を使った短い作文と、複数の単語・語法を使った 200~400 字程度の作文。

[第 2 日]単語・語法の説明と練習の続き。課によっては 5~10 分程度の口頭発表が課される。課題は関連するニュース番組のディクテーションや新聞記事の読解など、課によって異なる。

[第 3 日]必要な場合、単語・語法の説明と練習の続き。その後、前日の課題に関連した質問に回答したり、議論したりする。さらに、2 人 1 組で単語・語法を可能な限り多く使ってロールプレイングを行う。

(B)チューター・ステーション SA と週 3 回、各 1 時間の 1 対 1 面談(Google meet 利用)。内容は参加者の希望に応じて決定できます。報告者は中国語を話す機会を少しでも増やしたいと考え、毎回主に互いの国の文化や大学などについて紹介し合いました。台湾と大陸の言い方の違い、より正式な言い方と流行

語などを教わり、誤った発音を直して練習するなど、当初の目的が達成されたことはもちろん、台湾と日本の似ている点や異なる点を色々知ることができ、充実した時間でした。最終回は期末成果発表の練習と原稿の修正について検討し、大きな改善に繋がりました。

(C)実用中国語講義(Applied Chinese Course)全 3 回、各 2 時間の中国語による台湾文化紹介(NTU COOL 利用、オンデマンド)。テーマは台湾の祝い日、飲食文化、婚礼習俗で、比較的平易な言葉でゆっくりと説明されていました。報告者はリスニング練習のためやや速度を上げて観ました。台湾についての理解も深まりますので、時間が許す場合は数回観なおしてもよいと思います。

(D)台湾探究講義(Exploring Taiwan Course)全 4 回、各 2 時間、台湾大学などの教授 5 名が英語で研究を紹介するオムニバス講義(NTU COOL 利用、オンデマンド)。テーマは博物館と台湾、台湾の社会変化、原住民の食文化、台湾の信仰と民俗でした。いずれも興味深い内容で、様々な学びを得ました。4 回のうち 3 回は試験または課題が課され、中国語や英語を書く練習にもなりました(課題によっては中国語で書くことを選択できましたが、基本的には英語でした)。

(E)バーチャル文化ツアー第 1・3 土曜日に、各 1 時間強のツアーが開催されました(Google meet 利用)。ガイドの方が現地を映して巡りながら解説をしてくださり、時にはガイドの方とのやりとりもありました。第 1 回は龍山寺で、クラスごとにガイドの方が 1 名つきました。報告者のクラスは、中国語で龍山寺の歴史や仏教と道教が混在している理由などを教えていただきました。第 2 回は中正紀念堂で、全参加者合同で行われ、英語で台湾の現代史を説明していただきました。コロナ禍の今、画面越しとはいえ現地を見学できる機会は貴重なものでした。

(F)アクティビティ第 2 土曜日に、4 名の SA が主催し、全参加者合同でアクティビティを行いました(Google meet 利用)。使用言語は英語で、自己紹介とアイスブレイクを行い、台湾クイズを交えて台湾映画の歴史と代表作の紹介を受けた後、実際に各自材料を用意して蔥油餅(台湾屋台料理)を作りました。台湾文化を五感で体験できたこと、離れた場所にいる参加者が同時に同じことに挑戦したことに、えもいわれぬ感動を覚えました。

(G)Facebook グループ連絡事項伝達のほか、数日に 1 回程度、SA による台湾の紹介が中国語と英語で投稿されました。内容は飲食物から観光の目玉まで多岐にわたり、コメントを通して文字による中国語会話を練習することもできました。

(H)期末成果発表最終金曜日に、全参加者合同で 1 時間 30 分程度の発表会がありました(Zoom 利用)。1 人あたり 8~10 分間の中国語による発表の後、各クラスの担当教員が講評を行いました。事前に原稿とスライドを準備し、教員による添削を受けた後、SA と練習を行ってから臨みました。テーマは自分で選べましたが、ほかのクラスの参加者は多くが在住地域の紹介でした。報告者のクラスでは社会問題や科学発展などについて、新聞記事を交えて話す必要がありました。どの参加者も学んだ中国語を活用して自分の言葉で原稿を作成して練習し、流暢に発表しており、その内容もいずれも興味深いものでした。

■プログラム外で行った交流活動をすべて教えてください /Activities you took part in other than this program :

参加者同士(東大生含む)の連絡先交換, SA との連絡先交換・SNS を通じたチャットのやりとり。

■プログラム外で行った交流活動について、具体的に教えてください /Details of the activities you chose in other than this program: /

参加者同士の連絡先交換: 中国語講義のクラス内連絡は LINE グループで行われました(全員が LINE を利用していたため)。また、同じクラスの参加者とは相互に Facebook の友達登録をしました。SA との連絡先交換・SNS を通じたチャットのやりとり: 最初に届いたメールの後、SA とは Facebook の Messenger を

利用してやりとりをしていました。連絡事項のほかに、親しい友人同士が使うメッセージの表現方法などを、チューター・ステーションの時間外であるにもかかわらず教えてもらったり、逆に日本語の似た表現を紹介したりしました。

■週末に課題はありましたか。また、予習や復習をしましたか？

週末だけでなく、平日も毎日課題が出されました。課題はいずれも講義の予習・復習になる内容でしたので、追加の予習・復習は教科書の新出単語や語法を確認する程度でした。

■プログラム実施時間帯(時差)について、ご意見をお聞かせください：

ちょうど良かった。

補足：中国語講義の時間は、同じクラスの全員が参加できる時間帯を調査して決定されました。チューター・ステーションの時間も SA と学生の都合をつき合わせて決められました。他のイベントについては一律でしたが、フランスの学生を除く全員が参加できていました。台湾と日本の時差は 1 時間と小さく、また日本人学生が比較的多いので、日本人学生が参加しにくい時間が設定されることは考えにくいと思います。

■プログラム日数(長さ)はいかがでしたか？

短い。

参加前の準備・手続きについて/About preparations and procedures before participation

■プログラムへの参加手続き/Procedures for participation：

東大を通して応募したため、まず UTAS で必要な手続きを行い、推薦完了の連絡を受けた後、さらに台湾大学のウェブサイトで行いました。今回のプログラムの場合、東大から推薦をいただくと、授業料が一部免除になる(400USD 割引)というメリットがありました。

〈東大での手続き〉UTAS を通して応募しました。「海外派遣」から参加したいプログラムを選択して、必要事項を全て入力します。指導教員が決まっている場合は応募の前に指導教員に許可をいただく必要があります。応募書類にも指導教員名・指導教員の内線番号・許可をいただいた日付を記入しなければなりません。このほか、学歴・職歴・海外渡航歴(1,000 字以内)、自己アピール(1,000 字以内)、参加したい理由(2,000 字以内)の入力や、誓約書(Go Global ウェブサイトよりダウンロード・印刷し、必要事項を手書きして PDF 化したもの)の添付も必要でした。東大の締切を確認し、早めに準備を始めるとよいと思います。今回は締切が 4 月 26 日、推薦可能の連絡をいただいたのが同 28 日、推薦完了の連絡をいただいたのが 5 月 12 日でした。

〈台湾大学での手続き〉手続きは全て英語によって行います。参加したいプログラムのページにある「APPLY HERE」から申し込みます。まず氏名や連絡先、所属大学、奨学金受給有無などの基本事項を入力すると、申請費(150USD)の支払いを求められますので、画面の指示に従ってクレジットカードで支払います。支払いが確認されたら、顔写真(JPG)と成績証明書(PDF)をアップロードします。成績証明書は大学に出向いて入手する必要があるため、自動発行機の稼働日時を確認し、早めの準備をおすすめします。アップロード後しばらくして、受入許可のメールが届きます。メールを受け取ったら参加費用(1,150USD)の支払いに進みます。海外送金またはクレジットカードが選択できます。報告者はクレジットカードを選びましたが、自分や家族のカードを複数試してほとんど使用不可でした(原因は不明)。最終的に使用可能なカードが見つかりましたので問題ありませんでしたが、問題が起こった場合はすぐに台湾大学の担当者に連絡するとよいと思います。支払いが確認されたら次に進み、プログラム終了後の成績証明書の送り先(大学の担当部署)や緊急連絡先、パスポート情報のほか、中国語・英語の 4 技能のレベル

を回答して終了です(ここで入力した中国語レベルは、期間中の中国語講義のクラス分けにはあまり関係ないようです)。最後のページは後から編集できますが、それ以前のページで入力した情報は編集できないため、やむをえず変更する場合はメールで担当者に連絡しなければならないそうです。台湾大学側の締切は東大のものとは異なりますので注意が必要です。今回は5月16日が締切でしたので、推薦完了からあまり時間がありませんでした。

■ 東京大学の所属学部・研究科(教育部)での手続き/Procedures required by faculties or graduate schools at UTokyo :

プログラム履修に関しては、特に手続きは必要ありませんでした。

■ 語学関係の準備/Language preparation :

〈中国語〉今回報告者が参加したプログラムは中国語を全く学んだことがない人から上級者までを対象としていますので、中国語の準備は必須ではありません。プログラム開始の数日前にプレースメントテストがあり、期間中はレベル別・少人数の授業を受けます。報告者(TOCFL 高階級(B2)、HSK5 級 238 点)の場合は、プレースメントテストで少し難しい方がよいかと尋ねられ、はいと答えたところ、最も習熟度の高いクラスに分けられました。〈英語〉プログラムに含まれる中国語講義以外の講義・イベントの一部は英語で行われますので、少し練習しておくともよいかもかもしれません。

費用・奨学金に関すること/About expenses and scholarships to participate in studying abroad

■ 参加するために要した費用/Expenses of participation :

| | |
|--|---------------|
| 主催大学への支払い(授業料・プログラム料など) /Payment to host institution (tuition, Program fee.) | 143,000 円/JPY |
| 教科書代・書籍代/Textbook / Book | 3,400 円/JPY |
| 本プログラム参加にあたりオンライン環境整備に要した費用(Wi-Fi等)/ | 0 円/JPY |

■ 参加に要した費用について、その他、補足等/Additional comments :

■ プログラム参加のための奨学金の受給有無/Scholarships to participate :

受給した。

■ 奨学金の支給機関・団体名等/Name of the source of the scholarships :

東京大学

■ 受給金額(月額) /Monthly stipend :

50,000 円

■ 受給金額についての補足等/Additional comments about the monthly stipend :

〈補足〉募集要項から推測される予定金額です。

■ 奨学金をどのように見つけたか/How did you find the scholarships? :

大学(本部国際交流課)からの案内(Go Global ウェブサイトや募集要項等含む)

プログラムを振り返って/Reflection

| |
|--|
| <p>■プログラムに参加したことの意義、その他所感/Impact of the participation on yourself or your thoughts :</p> <p>今回のプログラムを通して報告者は、母の故郷である台湾で使用されている言語を集中的に練習すると同時に、台湾の多様な側面を垣間見、理解を深めることができました。半分台湾人であるにもかかわらず台湾とかかわった経験が少ない報告者にとって、非常に意義深い3週間でした。</p> |
| <p>■今後のキャリアに対する考え方や就職活動に与えた影響/Impact of the program on your thoughts for a career or job hunting :</p> <p>今後も中国語の学習を続けて自らの強みとし、社会に出た後も活用したいと考えています。</p> |
| <p>■進路・就職先(就職希望先)/Career/Occupation (planned):</p> <p>未定</p> |
| <p>■今後参加を考えている学生へのメッセージ、アドバイス/Any messages or advice for future participants :</p> <p>〈オンラインプログラムについて〉コロナ禍で留学に行くことが難しい中、オンラインプログラムは留学に非常に近い経験が得られる貴重な機会でしたので、留学に興味があるにもかかわらずコロナ禍収束を待つ時間がない方には特におすすめしたいです。</p> <p>〈今回のプログラムについて〉中国語(台湾華語)を集中的に学ぶことができるだけでなく、多種多様な方法で台湾文化に触れることができますので、台湾に少しでも関心がある方にとって得るものは大きいと思います。今回のプログラムについて報告者に質問なさいたい方は、可能な限りお答えしますので、大学を通してご連絡ください。</p> |
| <p>■準備段階やプログラム参加中に役に立ったウェブサイト、出版物/Websites or publications which were useful while preparing for or during program :</p> <p>〈情報収集〉Go Global ウェブサイト: 留学プログラムや奨学金の情報が随時更新されますので、時々参照するようにしていました。今回参加したプログラムのページ (https://oiasystem.ntu.edu.tw/summer/course/index.detail/season/2/course_sn/225/intro/1940): プログラムの概要やシラバス、申し込み方法等が記載されています。台湾大学への申し込みもこちらのページから行います。</p> <p>〈教科書〉葉徳明主編(2018)『遠東生活華語三』遠東圖書公司。※各レベルに応じた教科書は、事前にシラバスに掲載されていました。インターネット書店(誠品線上 https://www.eslite.com): 教科書購入のため利用しました。台湾の大手ネットショッピングサイトは他に「博客來」「金石堂」がありますが、いずれも『遠東生活華語三』は取り扱いがないようでした。教科書によってはほかのウェブサイトでも見つかると思いますが、送料の計算方法や割引キャンペーンなどサイトによって異なるようですので、比較してから購入することをおすすめします。</p> <p>〈その他〉Facebook: 報告者はアカウントを持っていましたが、何年も使っていませんでしたので、ログインや操作方法が曖昧でした。プログラム中 Facebook グループへの参加は必須事項のため、使い慣れていない場合は使い方を確認しておくとうきそうです。ちなみに SA に尋ねたところ、台湾では大学入学以降 Facebook を活用することも多いそうです。「TOCFL 華語文能力測驗」ウェブサイト(https://tocfl.jp): 台湾華語の検定試験です。プログラム参加のモチベーションの一つとして、プログラム終了の約1週間後に開催される試験(Band C)に申し込みました。</p> |